

千葉市動物公園 アカデミア・アニマリウム 屠体給餌プロジェクト報告会

開催日：2023年11月12日（日）

場所：ライオン舎前、動物科学館1階レクチャールーム



時間	場所	所属・肩書	発表者	演題
10:00-10:15	ライオン舎前	TCA東京ECO動物海洋専門学校	学生	【なぜ野生動物が増えたのか？（イノシシプログラム）】
10:30-10:55	レクチャールーム	千葉市動物公園 教育普及啓発員	平田 絢子	【千葉市動物公園の屠体給餌プロジェクト経過】 皆様にご協力いただいた「屠体給餌クラウドファンディング」や、屠体給餌プロジェクトの経過をお話しします。
10:55-11:45		日本大学 生物資源科学部 動物学科 教授	細谷 忠嗣	【と体給餌コンソーシアムの取り組みについて】 増え過ぎた野生動物による被害対策として捕獲が進められているが、捕獲個体の利活用が課題となっている。農林水産省では捕獲個体の利活用の推進として本年度から「と体給餌利用促進事業」をスタートした。この事業は千葉市動物公園他8団体で形成する「と体給餌利用促進コンソーシアム」が担っており、その活動内容について紹介する。
13:00-13:15	ライオン舎前	TCA東京ECO動物海洋専門学校	学生	【なぜ野生動物が増えたのか？（シカプログラム）】
13:30-14:00	レクチャールーム	ALSOK千葉株式会社 ズビエ工房 茂原 施設長 解体師	小高 栄 高山 良治	【なぜALSOKが、ズビエ事業を始めたのか？】 (1) ALSOKグループ及びALSOK千葉株式会社のズビエ事業の今までの沿革の説明。 (2) 捕獲獣（猪）の回収、搬送、解体、部位分け、保管方法とトレーサビリティ内容の説明。 (3) 工房内施設の説明と衛生管理方法及びSDGsとの関連の説明。 (4) 屠体給餌への協力。
14:00-14:20		豊橋総合動植物公園 動物研究員	伴 和幸	【（研究報告）と体は衛生的と言えるのか？ ～細菌数を調べてみた～】 野生動物を餌に使用する場合、感染症予防の観点から徹底した衛生管理が求められる。我々は中心温度65°C30分以上の殺菌等が施されたシカとイノシシのと体と、動物園で使用されている肉や野菜の細菌数（一般生菌、大腸菌群）を調査した。その結果、と体の細菌数は他の餌との差が小さく、給餌可能な衛生状態と考えられた。
14:30-15:00		千葉市動物公園 研究員	中山 侑	【（研究報告）野生動物由来の屠体肉の栄養評価】 皆様にご協力いただいた「屠体給餌クラウドファンディング」の支援金により、屠体給餌の科学的検証を進めています。その一つに屠体給餌の栄養面で有用性や適切な栄養管理を行うための方法を検討しています。今回は現在の状況についてご報告させていただきます。
15:00-15:30	レクチャールーム	東邦大学 大学院 理学研究科 修士課程1年 東邦大学 理学部 生物学科 准教授	学生 井上 英治	【（研究報告）屠体給餌がライオンとブチハイエナの行動に及ぼす影響】 千葉市動物公園では、ライオンとブチハイエナに皮や骨がついたままの獣肉を与える屠体給餌が行われています。撮影された動画を用いて、屠体給餌が与える行動への影響について調査を進めており、今回の発表では、寝室でのライオンの夜間の行動への影響、第2回報告会で紹介したハイエナの夜間の行動との違いについて発表します。
15:30-15:40		千葉市動物公園 園長	鍋木 一誠	おわりの挨拶